

はじめに



我が国の出生率や出生数は、1970年代半ばから低下傾向が続いており、急激に少子化が進んでいます。平成20年の合計特殊出生率は1.37であり、過去最低を記録した平成17年の1.26以降、微増しているものの、今後さらに少子化は進むと予想されております。

本市におきましては、平成20年の合計特殊出生率が1.62（長崎県1.50）で、国や県よりも高い水準となっておりますが、人口が安定的に維持される水準の2.08を下回っている状況であり、社会や子どもの環境に大きな影響を与えることが懸念されます。

このような中、本市では平成16年3月に「次世代育成支援佐世保市行動計画（前期行動計画）」を策定し、地域における子育て支援や教育環境の整備、子育てと仕事の両立支援など、幅広い観点から子どもや子育てを支援するため、総合的な施策に取り組んできました。

この前期行動計画が平成21年度末で終了するため、平成22年度から平成26年度までの5年間に取組むべき施策を盛り込んだ「次世代育成支援佐世保市行動計画（後期行動計画）」（させぼっ子未来プラン）を策定しました。この計画は、前期行動計画の進捗状況や子どもや子育て家庭を取り巻く情勢の変化等を踏まえ、平成26年度までの5年間に緊急に取り組むべき施策とその具体的な目標を定めたものです。

この目標を達成するためには、行政や児童福祉施設、教育施設など関係機関の積極的な取り組みはもちろんですが、市民の皆さまが子どもや子育てについて考え、地域全体で支えていくことが重要です。これからも、関係機関、地域や市民の皆さまと共に、本市の将来を担う宝である子どもを安心して産み育て、子どもが健やかに成長できる環境づくりの推進を図っていきたいと考えています。

最後に、この「次世代育成支援 佐世保市行動計画（後期行動計画）」（させぼっ子未来プラン）の策定にあたり多大なご協力を賜りました、佐世保市保健・医療・福祉審議会、子育て専門部会の委員の皆さま、並びに貴重なご意見を賜りました市民の皆さまに感謝の意を表しますとともに、今後のプラン推進にもご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成22年3月

佐世保市長 朝長 則男